

児 発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

事業所名 療育サポートセンターわおん

回収 4

2023年 5月1日公表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点及び改善点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	0	年少の子どもたちにとって、空間が広すぎるので、パーテーションで適切な広さに調整している
	2	職員の配置数は適切である	4	0	0	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	0	1	トイレ・手洗いが幼児向けには十分とは言えず、いま以上の施設の改修は困難な状況である。トイレの置き台設置など工夫して対応していく予定
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	0	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	0	1	休業日以外のスタッフと心理士などが参加して会議を行っている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	1	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0	1	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	0	3	第三者委員会は設置していない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	0	1	年間計画のもと実施。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	0	保護者の方からの聞き取りや観察、チェックシートから情報を収集し、課題分析に役立てている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	0	チェックシートの利用やWICS等の検査を実施
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の機 すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地 支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	0	0	適切に選択され支援内容に反映されている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	0	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	1	2	保育士の欠員が出ていたが、追加配置によりチームでの取り組みが可能となっている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0	0	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	0	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	毎回の録画を見て、次回の支援に役立てている
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	1	0	利用児童での実績はない
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	0	2	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地 の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	0	
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や 力医療機関等と連絡 齎 している	0	0	0	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	0	1	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	0	1	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	1	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	0	3	対象児での実績はない
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	0	2	協議会内の子ども部会は情報が無い為、参加できない状況である
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	1回/月、「親子タイム」を設けている。できる限り保護者の参加をお願いしている

